

和の光

宝塚市立西谷中学校



新聞記事「読者の欄」から進路を考える ～「進路の意味、見えてきた」～

私は小学4年生から塾に通いだし、大学まで進路を真面目に考えてきたという記憶がない。ただ難しい高校、難しい大学に行くことが、世間一般の「良い人生」だと思っていた。

大学3年の秋、就職という進路決定の時期がやってきた。どのような職に就きたいか決まっている人がうらやましかった。ただ大学入学後、自分の望んだレベルの大学ではなかったこともあって自分に不満を抱き、これで良かったのかと考えたことがあった。そして、高校卒業後に就職した友人の話をきっかけに、「良い人生」は、世間が決めるものではないと思うようになっていった。だから、たとえ遅い歩みでも、自分の好きな道を見つけ出したかった。「数撃てば当たる」という気持ちで就職活動するのがあほらしくなって、活動はやめた。

結局、今は司法書士という聞いたこともなかった職業を目指して、専門学校に通っている。阪神大震災でボランティアとして働く司法書士を見て、専門知識を生かして人に尽くす姿に感動したからだ。勉強をはじめて一年半。自分でも不思議なほど、司法書士になりたいという気持ちが強くなっている。

進路を決めるとき私たちは、この道を選んで正しいのかと悩む。後悔しないだろうかと不安になる。だが、世間は狭くない。行き詰ったらその時また、違う道を選択することができるのだ。なかなか、「進路を決める」ということの意味が分からなかった私だが、そんな私を見守ってくれた両親に感謝している。

(専門学校生23歳)

世間では、難易度の高い高校・大学に進学し、大手企業に就職することが良い人生という風潮があるように感じます。勝ち組、負け組という言葉がはやった時代もありましたが、そもそも人生に勝ち負けなんてあるのでしょうか？上記の筆者もおそらく、世間一般でいう「良い人生」というレールに乗って、大学まで進学したのでしょうか。しかし、就職という人生最大の壁に直面したときに、このままで良いのだろうかという初めて疑問を抱いたようです。

このような話は、いろいろな所で耳にします。(耳にしてきました)せっかく大学まで進学したのに、どのような職に就きたいのか希望がない、就職したものの1週間もしない間に退職など。結局のところは、**自分自身で考えた進路ではなく、世間(他人)の引いたレールの上に乗っかってきただけで、そこには「自分の意志」が存在しないのです。**

人の性格や特技などが異なるように、**人の進路(人生)も千差万別だと私は思います。それでこそ人間の進路(人生)と言えると思います。**みなさんは、どのように感じましたか。

今、3年生は進路希望調査が配られています。この機会に、自分にとっての進路(人生)について、じっくりと考えて欲しいと願っています。

校長 筒井 啓介

■青春の1コマ(陸上部)

6月22日(土)、陸上部が宝塚市中体連夏季大会に出場しました。その様子を紹介させていただきます。



共通男子1500m1組(3年生:Aくん)



共通男子1500m2組(2年生:Bくん)



2年男子1000m5組(2年生:Cくん)



本校からは、Aくん(3年生)、Bくん(2年生)、Cくん(2年生)の3名の生徒が大会に出場しました。3人とも、今まで練習を積み重ねてきた成果が発揮できるように最後まで全力で走り切りました。今回の結果を振り返り、新たな目標を目指して、練習を積み上げていくことを期待します。頑張れ陸上部！！



西本先生・図師先生と出場メンバーで記念撮影



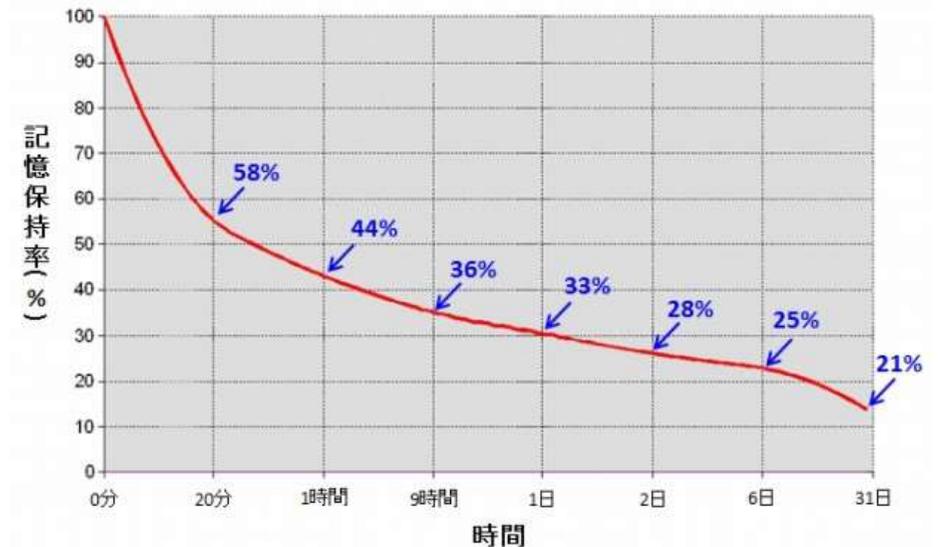
時間を見つけて期末考査の勉強もしていました

■期末考査が始まりました

6月24日(月)から期末考査が始まりました。1年生にとっては中学校で初めての期末考査ですね。中間考査とは異なり教科も増えて、家庭での勉強にも時間を要したことと思います。これまでの取り組みの成果が発揮できるように、焦らず丁寧に考査に臨んでください。2・3年生は、何度も定期考査を受けてきたので要領を得ていると思いますが、これまでの反省点が克服できるように気合を入れて考査に臨んでください。特に3年生は、進路選択時に困ることがないように、今できる最大限の努力をし、たとえ1点でも点数がアップできるようにしていこう。最後まで諦めるな西谷中生！！

■復習することの大切さ

皆さんは「エビングハウスの忘却曲線」って聞いたことがありますか？ドイツの心理学者、ヘルマン・エビングハウスが発表したもので、人間が覚えたことをどれくらいの速さで忘れていくかを示したグラフです。(人が無意味な文字の羅列を記憶し、時間と共にどれだけ忘れるかを数値化したものです。)下記のグラフから分かるように、人間は覚えた直後から急速に忘れてしまう生き物であることが分かります。20分後に約40%、1時間後に約60%、翌日には約70%も忘れていくという結果になっています。



【エビングハウスの研究結果の概要】

- ①何かを学ぶ時、それが自分にとって意味のあるものであったり重要なものであったりした場合、覚えることは楽である。逆にその内容が意味のないものであれば、すぐに忘れる。
- ②学習に時間をかけると、習得できる情報量も増える。
- ③一度目の学習より二度目以降の学習の方が楽になる。復習を重ねるごとに忘れにくくなる。
- ④一度にたくさん学ぶよりも、時間をかけて何度かに分けて学んだ方が、学習効率は上がる。
- ⑤学んだ直後から忘れ始める。最初は一気に忘れ、次第にゆっくりと忘れるようになる。

下記のグラフはどのタイミングでどれくらいの時間復習をすると、記憶が保持されやすいかを示しています。2日目には67%失われる記憶も、24時間以内に10分間復習をするだけで、再び記憶が100%に戻ることがわかります。そして、次の復習は1週間以内に5分すれば記憶が100%に戻ります。そして、次は1か月以内に2~4分ほど復習すれば、記憶が復活します。タイミングさえ間違えなければ、1時間も2時間もかけずにわずか19分ほどで1か月後も学んだことを忘れずにいられるのです。

授業で学んだことを24時間経つ前に復習することがとても大切です。(前日に予習をして授業を復習にしてもよいと思います。)短時間でもよいので、毎日、復習をする習慣をつけることが大切だと言えます。

